

ソーラーフロントティア

11～12月でメガソーラー稼働、計画など計23MWを発表

ソ ーラーフロントティア
ア（亀田繁明社
長）は11月～12月

12日現在で同社がモジュールを供給するメガソーラーの稼働開始や計画など5件を発表、8か所で供給量は計23・1MWとなっている。

まず12月12日、同社が約1MWを供給した長崎県の発電所が竣工した。発電事業者は液化石油ガス販売のチョープロであり、同県では初のメガソーラー稼働となった。

さらに同7日に三交不動産、4日に三井物産の2社とそれぞれ供給契約を結んだ。三交不動産へは5.2MWを供給、一方で三井物産へは山梨県甲斐市（約5MW）と韮崎市（約5.3MW）に計画されている「やまなしメガソーラー（仮称）」を始めとする計4か所、約14MWの供給を予定している。

三井物産は90億円を投資し、13年度中に全国10か所でメガソーラーを稼働させる計画を

打ち立てており、同社は今回のプロジェクト以外にも交渉を進める。

11月30日には、1MWを供給した鹿児島県出水市のメガソーラーが稼働を開始した。

同発電所の周辺地域はナベヅルやマナヅルなどの渡り鳥の飛来地点としても有名で、環境省の保全地域としても選定されており、建設地としては珍しいケースである。また

地元有志複数が出資する合弁会社である出水ソーラー事業が発電事業者であり、地域に調和した発電所となっている。

加えて同28日、相川プレス工業がすすめる発電事業に1.8MWを供給することが決定、起工式も行われた。

同発電所は相川プレス工業の工場敷地に建設する隣接タイプ。今回の着工は山梨県で計画されている民間メガソーラーでは初めての案件であり、来年3月頃に売電開始するとしている。

シャープ

産業用単・多結晶高出力モジュール1月発売
化合物3接合型セルで37.7%達成

シャ ープ（奥田隆司社長）は12月4日、国内産業用向けに

単結晶モジュール250Wと多結晶モジュール300Wの高出力モデル2機種のラインナップを発表、1月21日より発売する。

新発売する「NU-2500KA」、「ND-3000A」はそれぞれ従来機より10Wの高出力化を実現した。月産台数はNU-2500KAが3万台、ND-3000CAが3000台をみている。各スペックは表の通り。

加えて同月5日、1cm角の化合物3接合型セルで世界最

形名	NU-250KA	ND-300CA
タイプ	単結晶	多結晶
公称最大出力	250W	300W
モジュール変換効率	15.30%	15.30%
寸法(mm)	1655×989×39	1971×994×46
重量	約19.6kg	約23kg
価格(円・税抜)	オープン	オープン

高変換効率37.7%を達成したことを発表した。

同タイプのセルは異なる光吸収層を積層することで、吸収する波長範囲を伸ばし高効率化を図ったものである。前回の記録は昨年11月に達成した36.9%であり、今回は0.8%の効率向上に成功した。

カナメ

重ね折板屋根対応の架台発売

金

属屋根メーカーのカナメ（本社・栃木県宇都宮市、吉原正博社長）は、重ね折板屋根対応のPV架台「カナメ重ね折板用架台」を11月12日より販売開始している。

同製品は、工場や倉庫などで多く採用されている、凹凸状の屋根である重ね折板屋根に対応したもの。部品構成は、「縦材AL」、「縦材受け金具セット」、「端部

用押さえ金具セット」、「一般部用押さえ金具セット」となっている。この中でも特徴的なのが「縦材受け金具セッ



向上を図った。価格は案件によってことなり、沖縄県、離島を除いた全国で販売、目標は月間千kWシステム分としている。

「ト」で、屋根の既存ボルトにナット固定する構造を取った事で、屋根に穴を開けずに架台を設置する事が可能となった。これにより、PV設置後の雨漏り問題を解消できるとしている。

従来は折板屋根のボルト間隔によって架台レールの継手位置が限定されていたが、ボルトピッチに左右されないレール接合を可能とし、施工性